

平成 29 年 3 月 27 日

静岡市長 田辺信宏 様

NPO法人グリーンエネルギーしずおか
理事 西林秀晃

平成 28 年度静岡市協働パイロット事業実施報告書

[企画名] とめよう 地球温暖化講座

[目的]

静岡市環境基本計画の5つの基本理念の定着、啓発することに沿う事業にすべく、参加者に、地球温暖化防止という喫緊の課題に気付いてもらい、具体的な行動を起こしていただく事業を行います。

[実施]

当初実施想定		実施	
1	9月中旬 生涯学習センター	①	9.29(木) 蒲原東小学校 5年
2	9月下旬 生涯学習センター	②	10.11(火) 安倍口小学校 5年
3	10月中旬 生涯学習センター	③	11.24(木) 田町小学校 5年
4	10月下旬 小学校	④	1.29(日) 東部生涯学習センター
5	11月上旬 小学校	⑤	3.9(木) 駒形小学校 6年 4年
	小学校 2校 生涯学習センター 3か所 計 5か所講座実施を想定		小学校 4校 生涯学習センター 1か所 計 5か所講座実施

[当初実施想定と実施の差異]

- ①小学校は、学校教育課担当による調整が進み、実施希望校が増えた。
- ②生涯学習センターは、前年実績のあるイベントを中心に年間計画を立てるため、協働パイロット受託後の調整では、実施が困難であった。
- ③実施数は、想定通り 5か所。


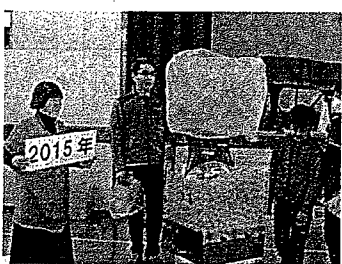


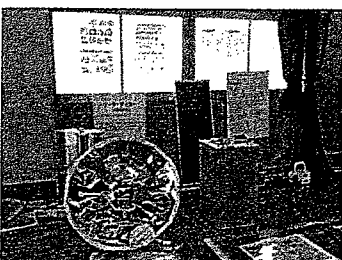

[実施メンバー] 主担当◎ スタッフ○

	①蒲原東	②安倍口	③田町	④東部生涯	⑤駒形
坂本		○		○	
古江	○	○	○		○
鮫島	○	◎	○		○
阿知波		○	◎		○
西林	◎		○	◎	◎
小林	○	○			○
久保田			○		
彦山	○				
ボランティア				2	1
メンバー数	5	5	5	4	6

[標準実施プログラム]

小学校	
2 時限 途中休息	
導入	
前半 座学	生活ボックス(※1) 2度までピンポン(※2)使用
後半 体験	①電力比較 ②風力発電 ③太陽光発熱・発電 ④自転車発電
振り返り	学習効果の確認
生涯学習センター	
時間 90分	体験のみ 30分 計 120分
導入	
前半 座学	
後半 体験	
振り返り	
引き続き体験のみ継続	

[使用機材等]

生活ボックス(※1)	2度までピンポン(※2)	電力比較
		
風力発電	太陽光発熱・発電	自転車発電
		

※1 生活ボックスー生活場面でどこにエネルギーが使用されているかコミュニケーションを取りながら考えるサイコロ型のイラスト付ボックス。

※2 2度までピンポンーCOP21で採択、締約された、産業革命以降の気温上昇にかかわる二酸化炭素の排出限界を視覚的に確認するツール。

本事業「IPCCツール作成費用2種類」で予算計上し、各講座で有効利用。

[当法人の役割として達成できたこと]

- ① IPCCリポートコミュニケーター制度をベースに、環境省開発の機材を使用するとともに独自プログラムを開発。楽しくわかりやすい講座を実施。
- ② 科学的知見に基づいた最新の情報の提供。
- ③ 静岡市全体の環境教育、生涯学習の活性化に貢献。
- ④ IPCCリポートコミュニケーターとしてのスキルの向上を図り、持続発展的に展開されるよう、PDCAの実施。

[各所実施写真等]

平成 28 年 9 月 29 日(木) 蒲原東小学校 5 年
 主担当 西林 スタッフ 4 名 計 5 名



●主担当コメント

学校教育課森様の調整により、スムーズに実施できた。他市での実績もあり、適切な講座を開催できたが、学校側の協力と、学習後、環境発表会を実施する目的もあり子どもたちの活発な意見発表により学習が深まったと考えます。

平成 28 年 10 月 11 日(火) 安倍口小学校 5 年
 主担当 鮫島 スタッフ 4 名 計 5 名

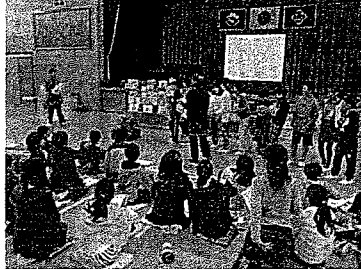
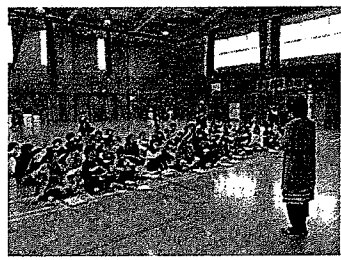


●主担当コメント

学校教育課森様の調整により、スムーズに実施できた。元気な子供たちの発言や体験により、印象ふかい講座になったと感じます。

平成 28 年 11 月 24 日(木) 田町小学校 5 年

主担当 阿知波 スタッフ 4 名 計 5 名



●主担当コメント

学校教育課森様の調整により、スムーズに実施できた。校長より自然環境に慣れ親しむ活動が多いが、体系立てての環境学習の機会を得られることは子供たちに大きな学習効果があると思われるとの感想を得ました。

平成 29 年 1 月 29 日(日) 東部生涯学習センター

主担当 西林 スタッフ 1 名 ボランティア 2 名 計 4 名

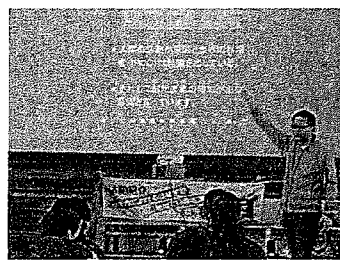


●主担当コメント

東部センター祭りと連動し、当初 8 組 20 名の参加予定であったが、終了後の体験含め 61 名の市民が参加。印象としては、子供たちよりも保護者の方が積極的に環境についての学びを得ようとの意志が強く、質疑やエネルギー問題に関しての発言が多くありました。

平成 29 年 3 月 9 日(木) 駒形小学校

主担当 西林 スタッフ 4 名 ボランティア 1 名 計 6 名



●主担当コメント

6 年、4 年の 2 学年が連続して講座を受講されました。特に 6 年は環境に関する学習があり直接、体験や学びの整理ができたことがよかったとの感想を得ました。4 年は、全員が手をあげて質問や発言が出るような活発な様子で、大変真摯にかつ楽しく学べたと感じます。

[本事業で配布・回答をいただいたアンケート]

- ①「とめよう！地球温暖化」アンケート一当会での振り返りに使用
- ②COOL CHOICE×しずおかエコライフチェックー環境創造課へ提出

[本事業に関する考察]

環境省は 2014 年度より、IPCC 第 5 評価報告書の内容を広く一般の国民に伝えていく「伝え手」として積極的な気候変動対策への取組の機運を醸成し、個人の行動変容につなげることを目的とした「IPCC リポートコミュニケーター(改称：地球温暖化防止コミュニケーター)」を養成。「伝え手」を担う当法人がこの学習プログラムを実施。環境省ツールをベースに当法人が培ったノウハウも組み込んだ独自の学習プログラムを作成し、最新のデータを盛り込み、各種プログラムの紹介も適宜行われることから学習プログラムも都度更新を続けていきます。小学校 4、5 年生で環境教育が始まることから学校と連携した出前講座は有効に機能しました。また生涯学習センターで地球温暖化に関心の高い成人に講座を実施でき、環境リスクに関心を持っていただけたと考えます。本プログラムで、学びだけに終わらない何かを実践する市民が、増えていくことを望み、今後も本プログラムを継続して実施します。

以上